

国民スポーツ大会スキー競技会、山形で開催

第78回国民スポーツ大会の冬季大会スキー競技会が2月21日から24日まで山形県で開催された。ジャイアントスラロームの会場となった最上町の赤倉温泉スキー場では、暖冬の影響で雪が少ないため、コース全長を約1050メートルから約300メートルに短縮して実施するなど、主催者は異例の対応に追われた。

山形県出身で大会を主催するJSP0（日本スポーツ協会）の遠藤

クロスカントリー成年男子リレー



利明会長は開始式で「日頃鍛えた力と技を存分に発揮し、スポーツの価値を改めて感じてほしい」とあいさつした。

22日に山形市のアリオンテック蔵王ジャンツェで行われたジャンプの成年男子B（27歳以上）では、五輪メダリストで51歳の葛西紀明選手（北海道）が101.5メートル、97メートルを飛び、合計237.7点で優勝した。



スペシャルジャンプ成年男子Bで飛躍する葛西選手



アルペンスキー大回転少年女子

日本女子、決勝で中国に惜敗 世界卓球団体戦

卓球の世界選手権団体戦は、2月16日から25日まで韓国の釜山で開催された。女子の日本は決勝で、世界ランキング1位から3位までの選手をそろえた中国と対戦し、2-3で惜しくも敗れた。1971年名古屋大会以来53年ぶりの金メダルはならなかったが、あと一歩まで中国を追い詰める接戦を演じ、今年のパリ五輪での戦いに期待を抱かせた。中国は6連覇。

日本は決勝の第1試合で張本美和選手が世界ランキング1位の孫穎莎選手に敗れたが、早田ひな選手が陳夢選手を、平野美宇選手が王芸迪選手をそれぞれ下して連勝。優勝に王手をかけたが、残る2試合で早田選手と張本選手が連敗して悲願には届かなかった。15歳の張本選手は「（負けは）本当に悔しい。これから、ただただ練習するだけ」と決意を話した。今大会のベスト8以上にはパリ五輪出場権が与えられ、準々決勝で中国に敗れた日本の男子も、五輪の団体出場権とシングルス2枠を獲得した。



中国との女子決勝でプレーする平野選手（EPA時事）



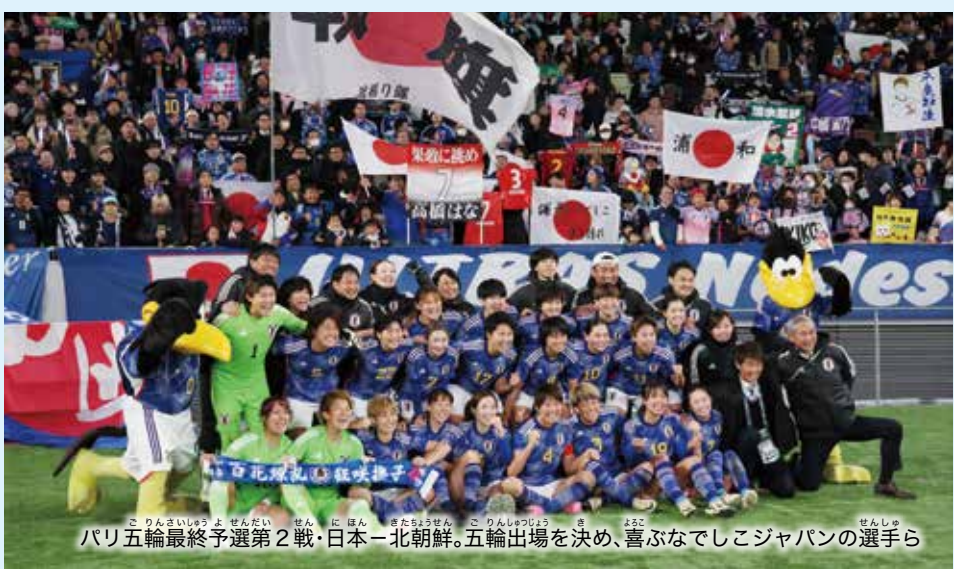
記者会見でメダルを手に笑顔の（左から）木原美悠、張本美和、早田ひな、平野美宇、伊藤美誠の各選手

なでしこジャパンがパリ五輪出場決める

女子サッカー

サッカーのパリ五輪女子アジア最終予選は2月28日、東京・国立競技場でホームアンドアウェイ方式の第2戦が行われ、FIFA（国際サッカー連盟）ランキング8位の日本（なでしこジャパン）は9位の北朝鮮に2-1で競り勝ち、2大会連続の五輪出場を決めた。24日の第1戦（サウジアラビア・ジッダ）は0-0の引き分け。日本はこの日の勝利で、2試合合計のスコアを2-1として北朝鮮を退けた。

日本は前半26分、FKからゴールポスト



パリ五輪最終予選第2戦・日本-北朝鮮。五輪出場を決め、喜ぶなでしこジャパンの選手ら

に当たってはね返ったボールを高く橋はな選手がシュートして先制ゴール。GK山下杏也加選手が危ない場面を好守で救い、後半32分には藤野あおば選手がヘディングで2点目を決め、その後の北朝鮮の反撃を一点に抑えた。日本の池田太監督は「タフな試合を戦った選手に敬意を表したい。（五輪に向け）しっかりと準備したい。世界一、金メダルを目指す」と抱負を語った。



JT-NEC。第1セット、スパイクを決めるNECの古賀選手（中央）

NECが連覇で8度目の優勝

バレーボールVリーグ女子

バレーボールVリーグ1部の女子プレーオフ決勝は3日、群馬県の高崎アリーナで行われ、レギュラールウンド2位のNECが、同一位のJTを3-1で破り、2季連続8度目の優勝を果たした。昨季に続き、全日本選手権との2冠を達成。ここまで22戦無敗だったJTは、3季ぶりの優勝をのがした。



優勝を喜ぶNECの選手ら

第1、2セットを接戦の末に連取したNECは、第3セットを落とし、第4セットは古賀紗理那選手のバックアタックを織り交ぜた攻撃と粘り強い守備で勝ちきった。2季連続3度目の最高殊勲選手（MVP）に選ばれた古賀選手は、「私を含めて個々が成長した。これまでの（自身が経験した）3回の優勝より自信を持ってプレーできた」と喜びを話した。